

移住者新聞

2022
Vol. 4

二〇二二年一二月
発行：日田市
ひた暮らし推進室



大山えのき「マッシュルク」生産者の寶珠山寛之さん

◆寶珠山さんのプロフィール

北九州市小倉の出身で三年前に日田市に移住しました。妻は日田出身で、高校生の頃出会い、交際をスタートしてそのまま結婚しました。現在は日田市内に住んでおり、大山の工場まで毎日通っています。

◆えのき就農に出会ったきっかけ

私も妻も元々農業に興味があり、市産者育成を目指す制度「ファーマーズスクール」を目にし、そこで注力している三品目（当時、大山えのきのほかに梨、チンゲンサイ）があることを知り、また、新聞に大山えのきファーマーズスクール一期生の帆足さ

んが載っている記事を妻の母が見つけて教えてくれたのも、この業界に入るきっかけでした。えのきを選んだ理由は、何と云っても「きのこ」が好き。室内生産で寒暖の厳しい中で作業ではない点や、比較的天候に左右されにくく安定して栽培ができる点。また、対人関係があまり得意でなく虫が苦手なことにも

今年も年の瀬が近づき、気づけば十二月も終盤に差し掛かってきました。今年皆さんにとってどんな一年でしたでしょうか。写真やSNS、一緒に過ごした仲間や家族と共に振り返ってみては…。そして来年も皆さんにとって素敵な一年になりますよう祈念しております。今年最終号は、大山町でえのき栽培で就農した寶珠山ご夫婦取材しました。

対応でき、自分たちでやりたい作業環境に重きを置くことができると考えたからです。

◆えのきファーマーズスクール入校談

令和元年七月に「ジョブカフェおおい（若者の就業相談所）」で、大山えのきファーマーズスクールの話聞き入校を決めました。面接では、「誰か手伝ってくれる人はいますか」と聞かれました。一人で就農を成り立たせることは現実的に厳しいことから、家族や夫婦で始める人が多いと聞きます。令和二年四月入校の予定でしたが、コロナが感染拡大していた時期でしたので七月に延びました。

週六のお昼までの研修。研修場所は大山町農協の大きな施設で今の工場の七倍もの規模でした。二百五十コンテナ（約三千本）の収穫と紙巻き作業を繰り返したことで、技術が早く身に付きました。二年目に模擬経営をさせ

てもらったことは、現在の仕事に活かされている経験でした。

◆研修を終え、念願の就農

二年間の研修を終え、今年九月に就農。工場は二年前まで栽培していたところを借りることができたので、機械などの初期投資が抑えられ大変助かりました。

他の作物に比べれば気候に左右されにくいですが、気温や湿度、天候の変化の影響は受けてしまうので、その対処方法などを、所有者の方に教えて頂けるので助かっています。九月二十三日には、記念すべき初出荷を果たしました。



◆えのき就農を通して伝えたい事

中間層がないので、若い方にもえのき就農に興味を持ってもらい盛り上がりかけていけないと思います。単純作業が好きなおすすめ。ほかの農家さんとの関わりはとても大事です。生産量が少ないと「最近、大丈夫？」と気にかけてくれて、時にはアドバイスをもらうこともあります。

◆ひた暮らしで伝えたい事、知ってほしい事

ファーマーズスクールは農業を始めたい、興味がある人に向けているので利用してほしい制度です。卒業後もスクールの人や市職員が声をかけてくれるので助かっています。その分貢献して、これからも大山えのきを絶やさないようにしていきたいです。支援金もうまく活用したのでとても助かりました。Uター



①芽出し室で表面の穴がふさがらるまで8~9日間育成させる。温度は平均15℃、湿度は80~90%（秋の朝方位の気候）を維持。



一日でこんなにも成長する！！



②抑制室は平均4℃。育ちの遅いものは育成を早め、育ちが早いものは遅らせる。ここで太くしっかり食べ応えがあるえのきに育つようコンテナの配置を変える。ビンから指2本分伸びてきたら、紙巻きをする。光や風も使って成長を促す。



③育成室では5~7日間、5.5~6℃で管理される。育ち具合によって湿度を調整している。外の天候に大きく左右され、しかも影響があるのは約1週間後。今週雨降ったら来週湿度が上がるといように…。紙巻きのシートから指一本分くらい伸びたら収穫。



決まった重さに軽量後、機械で脱気と同時に袋詰めされる。

ンやEター向けにいろいろな制度があるので、ちよつとアンテナを広げているような情報を収集することをおすすめします。

また、ファーマーズスクールは技術指導のみならず人脈をつくるのができ、初めて農業を始めたい人にはとても助かる制度です。

TVや新聞取材を受けたたり、大山町農協えのき部会の会長さんが、部会のみなさんに紹介してくれたことで、私たちが認知してもらえたことはありがたいことでした。

◆今後の目標

安定生産を目指すことと、まだ工場の栽培量に余裕があるので、規模を拡大しもっと生産量を増やすことです。妻の母が今の仕事を退職後、一緒に働く予定なので雇用ができるようになるためにも、今まで以上に

技術を磨いて、経営面の知識もつけていきたいです。また、等級分けして規格外のものは無印として出荷しますが、商品にならないものをなくしていきたいです。

大山えのき

「マツシルク」は白くて大きいのが特徴の大分県のブランドえのき。大山町農協や木の花ガルテン、ミニストップで主に出荷している。



大山えのきファーマーズスクールの詳細はこちら

